

病理学的 2cm 以下 (pT1) HER2 陽性乳癌の予後と治療効果について

久保 真 (九州大学大学院 臨床・腫瘍外科)

2009 年米国 MD アンダーソンがんセンターより HER2 陽性乳癌は 1cm 以下の大きさであっても他のサブタイプに比べ再発率が高いことが示されました (Gonzalez-Angulo AM, et al. J Clin Oncol. 2009, 1;27(34):5700-6)。それまで腫瘍の大きさ (T ステージ) とリンパ節転移 (N ステージ) など解剖・病理学的因子に基づいて分類し治療を行ってきましたが、科学技術の進歩にしたがい分子生物学的因子に基づいて分類するサブタイプという考え方が徐々に浸透し、HER2 乳癌に対する周術期治療が始まった時期でしたから、この結果は専門家にも大きな衝撃を与えました。

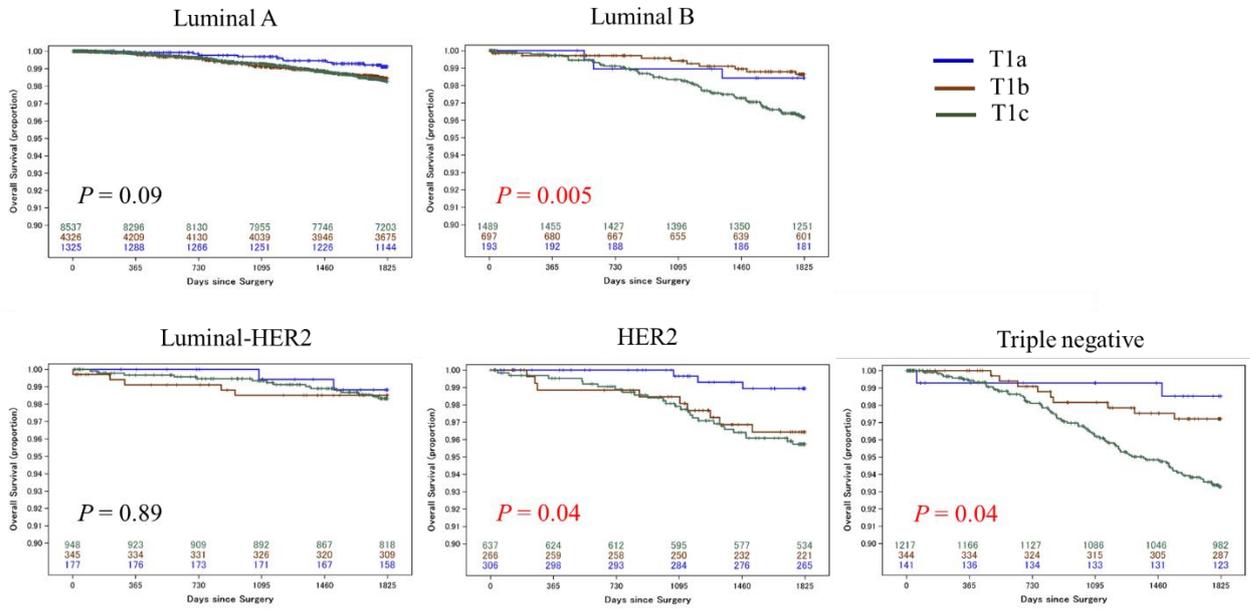
2015 年日本でも、小さな HER2 乳癌の予後と抗 HER2 治療の実施についてリアルワールドでのデータ創出の研究がスタートし、2019 年に本論文となっております。登録数 238,711 例から、条件を絞った 21,603 例を対象にしたグラフ (図 1) をご覧いただくと、2cm 以下の小さな乳癌であっても、11mm 以上 (pT1c) のルミナル B、トリプルネガティブの予後が悪く、HER2 乳癌に至っては 6mm 以上 (pT1b/c) で再発率が上昇することがわかりました。

さらに、術前化学療法を除く 2,736 例を対象に、腫瘍の大きさと治療の有無で再発率を検討すると、HER2 乳癌では pT1b/c で無治療群にくらべ治療群の方が有意に予後を改善していました。現在、HER2 乳癌に対して、T1bcN0 は抗 HER2 治療を推奨、T1aN0 では治療を考慮するとした米国 NCCN ガイドラインを裏付ける結果となりました。

ビッグデータによって海外のガイドラインが日本人においても追試できた意義は大きく、日本乳癌学会が社会的に大きな貢献を果たした研究として評価されると考えます。

☒ 1 .

Supplementary Fig 2. Overall survival curves according to subtype classification in cohort 2



☒ 2.

Fig 3. Survival curves according to systemic therapy

